

平成29年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-5号)

農林総合研究センター
平成29年6月23日調査

気象経過

<平年対比>

【平均気温】

- ・6月第4半旬は、金沢は並、輪島はかなり低い(平年差:金沢-0.3℃、輪島-1.5℃)
- ・6月第5半旬は、金沢は並、輪島はかなり低い(平年差:金沢-0.3℃、輪島-1.5℃)

【日照時間】

- ・6月第4半旬は、金沢、輪島ともにかかなり多い(平年比:金沢181%、輪島127%)
- ・6月第5半旬は、金沢、輪島ともにかかなり多い(平年比:金沢181%、輪島150%)

【降水量】

- ・6月第4半旬は、金沢、輪島ともにかかなり少ない(平年比:金沢0%、輪島0%)
- ・6月第5半旬は、金沢、輪島ともにか少ない(平年比:金沢61%、輪島64%)

【1ヶ月予報】

6月22日発表の1か月予報(6月24日~7月23日)では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

生育概況等

【本田の生育】

1. 出穂期(早生品種)

県内の生育観測田における早生品種ゆめみづほで幼穂が確認されており(0.5~1mm程度)、ゆめみづほの出穂期は加賀地域で7月18~20日頃、能登地域(羽咋~中能登)では7月23日頃と近年並で、前年より3~4日遅くなると思われる。

また、能登地域(奥能登~珠洲)の能登ひかりの出穂期は、7月27日頃と予想され、近年より3日、前年より9日程度遅くなると思われる。

2. 草丈

コシヒカリは平年比81%(加賀地域83%、能登地域80%)と短く、ゆめみづほは近年比82%(加賀地域82%、能登地域85%)と短い。

但し、葉齢の展開状況から勘案すると、いずれの品種も草丈は平年並と考えられる。

3. m²当たり茎数

いずれの品種も茎数の増加が緩やかとなっており、最高分けつ期を迎えていると思われるが、前年に比べやや遅れている。

コシヒカリは、平年比104%(加賀地域106%、能登地域101%)と平年および前年並、ゆめみづほは、近年比107%(加賀地域107%、能登地域113%)と加賀地域では近年及び前年並、能登地域では近年及び前年よりやや多くなっている。

ひやくまん穀は移植の早い加賀地域では527本/m²(株当たり29.4本)、移植の遅い能登地域では228本/m²(株当たり12.0本)となっている。

m²当たり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

品種	地域	茎数	平年比	前年比	株当たり
コシヒカリ	県平均	554本	104%	103%	30.6本/株
	加賀	576本	106%	106%	31.4本/株
	能登	520本	101%	100%	28.3本/株
ゆめみづほ	県平均	623本	108%	107%	34.6本/株
	加賀	636本	107%	106%	36.0本/株
	能登	596本	113%	112%	32.1本/株
ひやくまん穀	加賀	527本	(移植 5月6日)		29.4本/株
	能登	228本	(移植 5月17日)		12.0本/株

4. 葉齢

コシヒカリは県平均-0.5葉（県平均95%：加賀-0.3葉、能登-0.5葉）、となっている。

コシヒカリの葉齢展開からみた生育の遅速は、平年に比べて3～4日程度遅いと見込まれる。

【病害虫の発生状況】

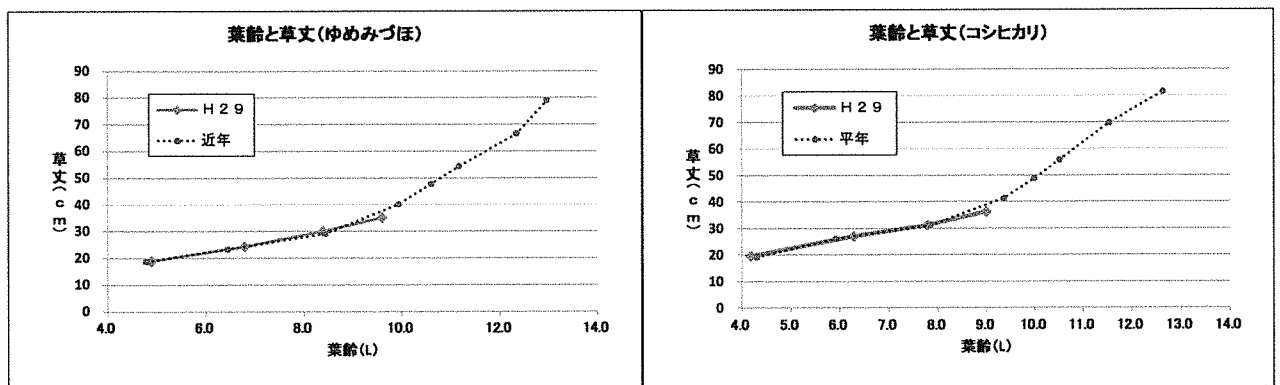
雑草地におけるカメムシ類の発生は平年に比べ多く、特に飛翔性カメムシ類が多い。

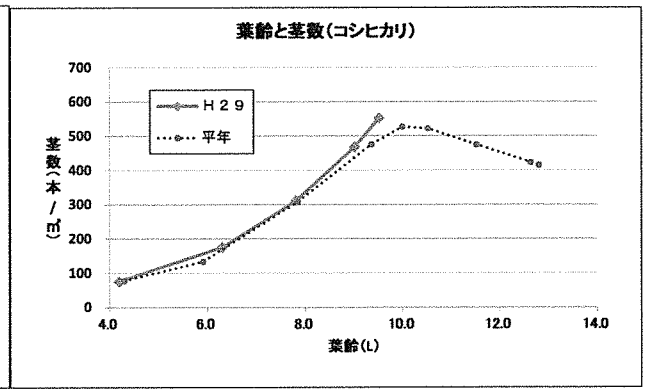
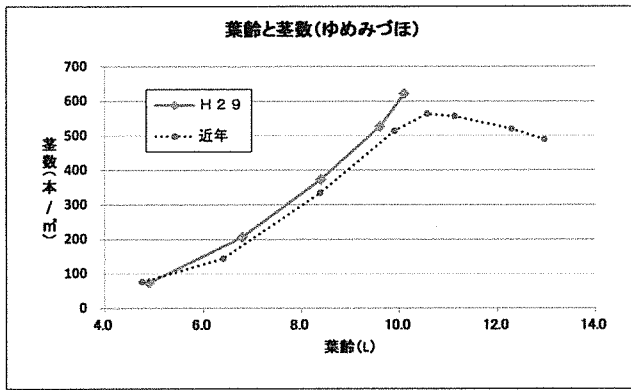
当面の対策

1. 早生は幼穂形成期に入っているため、中干しを終了し、以後、間断通水による飽水管理とし、根の機能低下防止に努める。
2. 早生の1回目の穂肥は、適期の幼穂長（ゆめみづほ：1～2mm出穂23日前、能登ひかり：2～3mm出穂20日前）を確認し、遅れずに施用する。ただし、茎数が多く、葉色が濃いほ場（葉色板4.0を超えるほ場）では、1回目の穂肥を減量して施用し、2回目は出穂7～10日前に基準量を施用する。
3. コシヒカリは、稲体の健全化、弱勢分けつの発生抑制と有効茎歩合の向上を図るため中干しを継続し、特に、分施体系のほ場では、中干しをしっかりと行い穂肥を施用できる稲体へ誘導する。
4. 高地力田や生育過剰なほ場では、やや強めの中干しを行い、適正粒数への誘導を図る。
5. 幼穂形成期（出穂前25～15日）に18℃未満の最低気温が予想される場合は、水深10cm以上の深水管理とし、不稔粒の発生防止に努める。
6. いもち病の箱施薬が行われていないほ場、いもち病の常発地および葉色の濃いほ場を中心に巡回を行ない、葉いもちの早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。
7. 紋枯病の常発地、前年発生ほ場及びゆめみづほ作付ほ場では、発生に注意し、防除を徹底する。粉剤での防除は、出穂前10～14日が適期である。
8. 斑点米カメムシ類の生息密度を下げるため、引き続き7月上旬まで畦畔や農道の除草を徹底する。除草は、集落など地域全体で一斉に実施すると密度低下の効果が高い。なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。

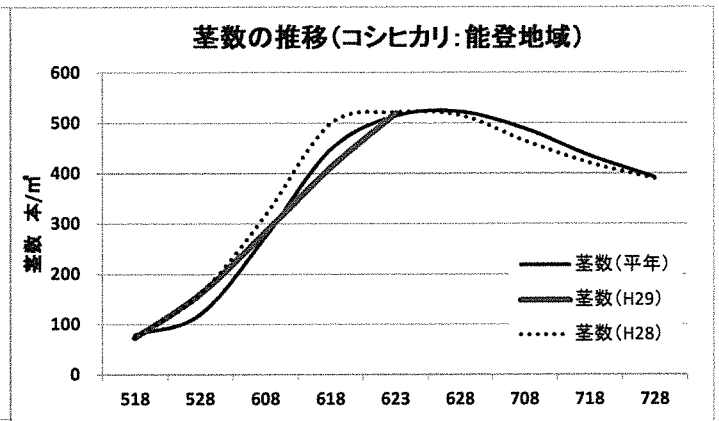
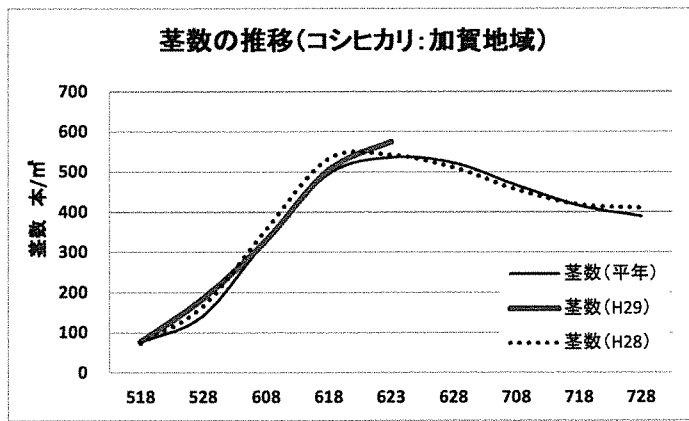
<参考：草丈の伸長および茎数の増加傾向>

- ・葉齢を基に草丈の伸長および茎数の増加を平年と比較すると、コシヒカリ、ゆめみづほともに草丈は平年並であり、茎数については平年よりもやや多くなっている。

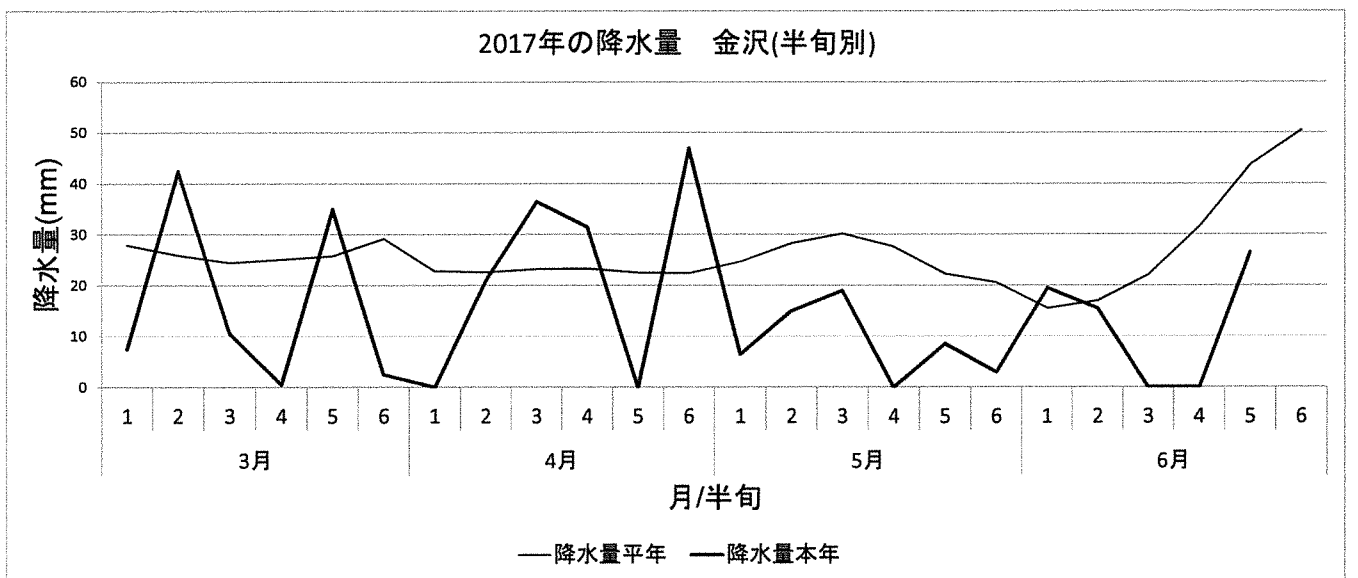
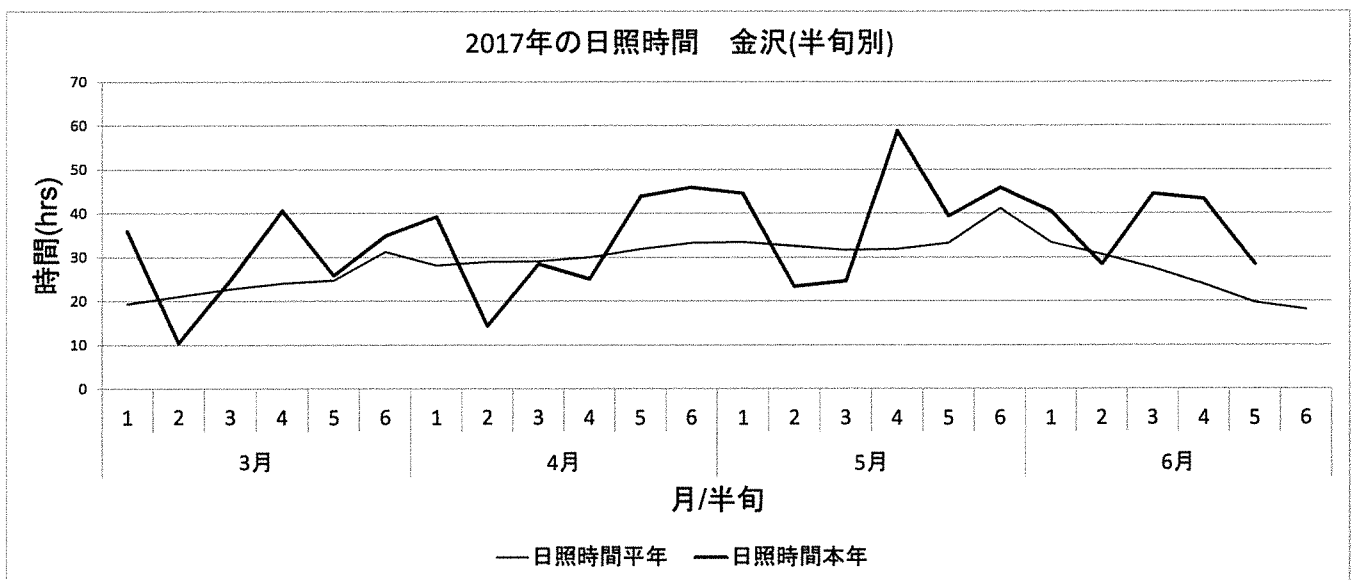
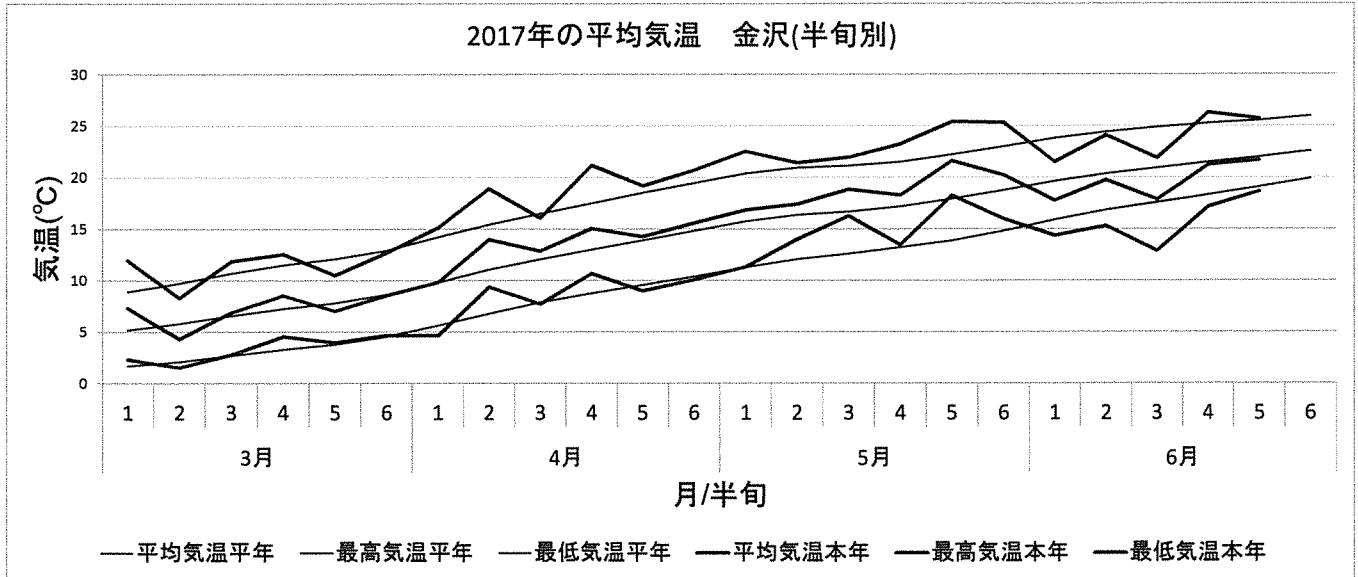




- また、調査日を基にコシヒカリの茎数増加を平年及び前年と比較すると、加賀地域、能登地域とも平年および前年並みとなっている。
また、最高分けつ期については、平年並で前年よりも遅くなると見込まれる。



気象経過イメージ (金沢気象台)

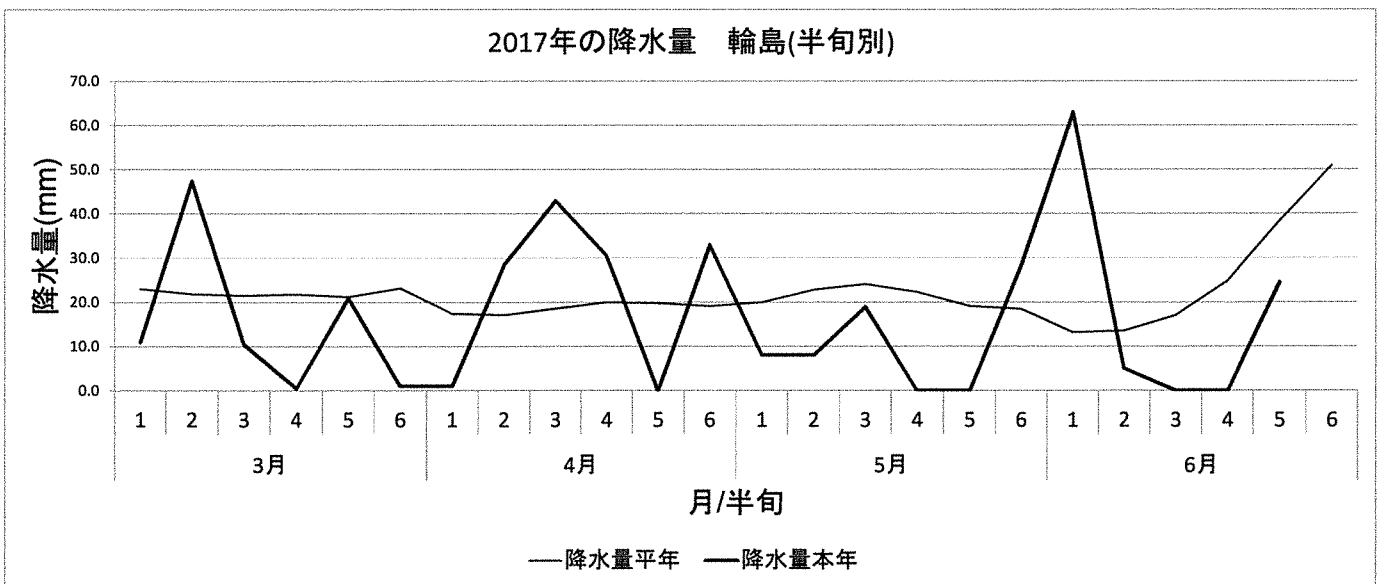
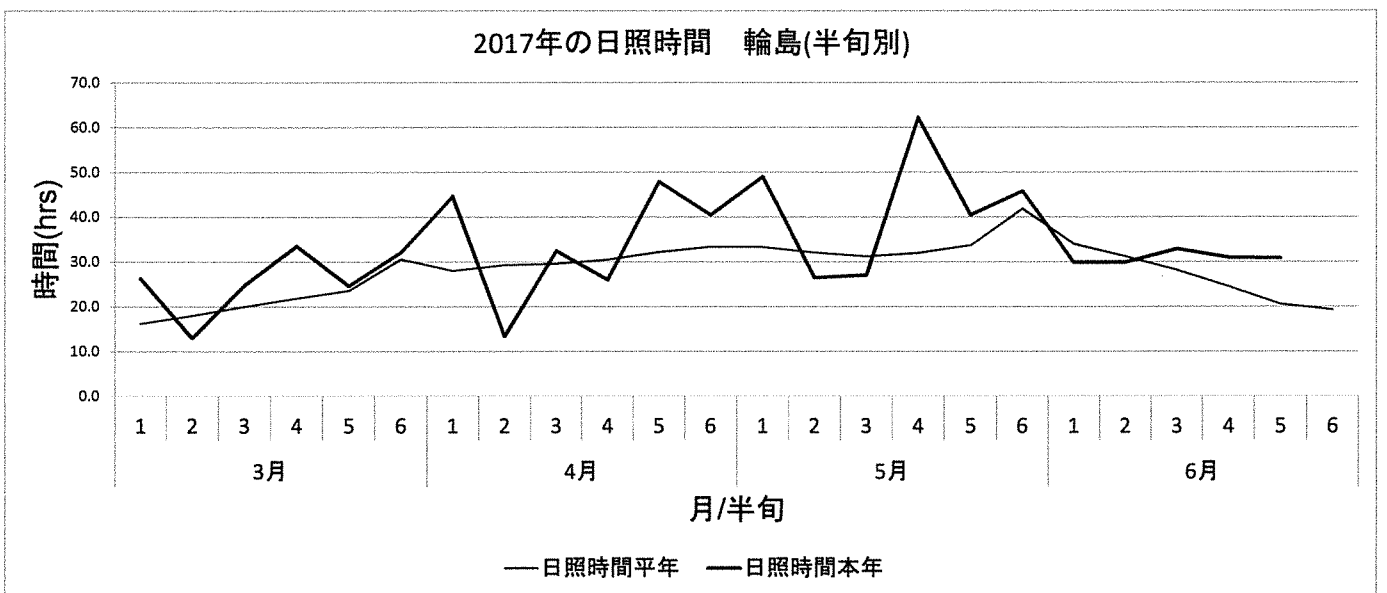
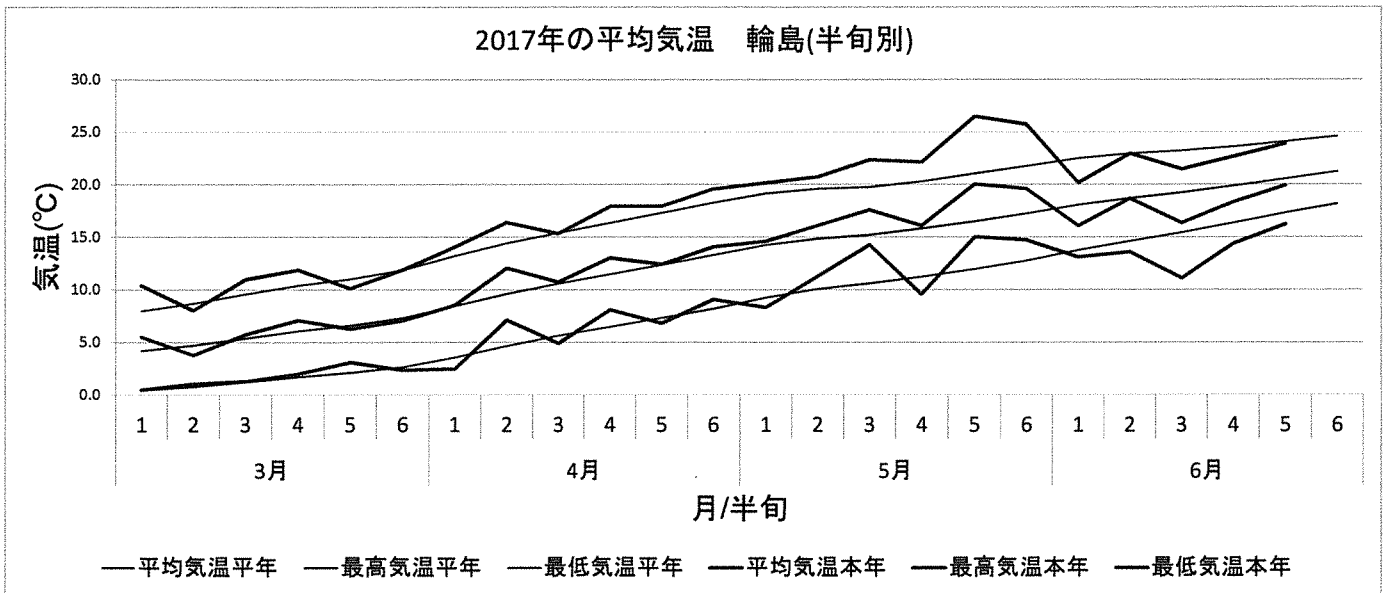


※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間(昭和56年～平成22年)の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成
 ※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い